

この「人」に聞く

福德産業株式会社

代表取締役社長

細田 信彦氏



独自技術と付加価値を強みに
国産滑り止め付き手袋で日本一

源流は備後がすり

祖父は福山市新市町で備後がすりを営む家に生まれ、海軍を経て呉で作業着を製造販売する商売を始めた。父は竹原の作業用手袋のメーカーで社長を務めたが、その後、父と兄が福山で立ち上げたのが福德産業㈱です。

当社の源流をさかのぼると、地元の伝統的な織維産業である備後がすりがある。かすりはもんべルート以外の新たな販路開拓にも注力。私もが名前を知る大手メーカーの工場に、福德産業の手袋が納入されるようになつた。

同社の細田信彦社長に会社の歴史や近年の状況をお聞きするとともに、今後の抱負をうかがつた。

海外進出見送り国産強化

国内の衣料メーカーが生産を海外に切り替える

で日本一を誇るのが、福山市にある福德産業㈱。関連会社のエキヤ産業㈱で年間600万双の手袋を製造し、そのうち400万双は福德産業で滑り止め加工をして販売する。

5年ぐらい前に発売した女性向けのラフルな手袋が最近のヒット商品。女性が使いたくなる滑り止め付き手袋で、新たなファンを開拓した。一方で作業用品店で、フルート以外の新たな販路開拓にも注力。誰もが名前を知る大手メーカーの工場にも、福德産業の手袋が納入されるようになった。

国内製造維持に仕入れ先を応援

大切にしているのが、当社に必要な資材・機械を製造・販売している業者との関係。染色加工や糸・機械など、そのメーカーがなくなつたら困るという先がいくつもあります。そのため、できる限り注文をして仕入れ先を支えます。仕入れが高くなつても、より付加価値のある製品を作つて、高く売るなどを考えればいい。

関連会社のエキヤ産業㈱も元々は糸を仕入れて

つあった中、私どもの会社も35年前、海外への工場進出・生産移転を検討したことがあります。しかし社員に「工場を海外に出したら行つてくれるか」と尋ねても、誰もが「海外に行けといわれたら辞めます」という反応だった。また情報を集めた限りでは、海外へ投資しても投資に見合うだけの回収ができるないと判断し、厳しくても国内製造を続ける決心をしました。台湾や韓国に生産委託している商品もありますが、今後も国内生産を続けます。

国産の手袋製造を続けられた背景には、「三本胴編み手袋」や「テーパー編み」のようないくつかの指の股よりも下がった位置にあります。小指の股部分が下がるように編み機を改造してできたのが三本胴編みです。テーパー編みは、手の幅に合わせて台形に編める技術で、5本指靴下を作る際に応用しています。独自技術のための編み機の改造は、意外とちよつとした工夫でできるものです。



細田 信彦氏 (ほそだ のぶひこ)

1953年生まれ。75年に玉川大学を卒業。神戸の企業で半年間ゴムについて勉強した後に、父と兄が立ち上げた福徳産業に入社した。47歳で社長に就任。お客様の声を生かした商品で働く人に作業の安心・安全を提供するとともに、付加価値の高い商品作りに努め、原料などの仕入れ先を支える。

福徳産業株式会社

所在地: 福山市千田町2-44-14

設立: 1968年

資本金: 7000万円

従業員: 61人

TEL: 084-955-0806

HP: <http://www.fukukoku-sangyo.co.jp/>

業務内容: 滑り止め付き手袋の製造販売

出先: 神辺物流センター(福山市神辺町川南1318-2)

関連会社: エキヤ産業(株)(福山市駅家町万能倉1298-1)

いた取引先の一つです。グループ会社になってからもしばらくは糸の生産を続けましたが、よそで糸の確保できるようになったときに、採算の取れない糸の製造をやめ、手袋を作る事業に切り替えました。現在、210台の編み機があり、22～23度の定温環境での手袋や本指ソックスを生産しています。手袋を編む際には大量のほこりが編み機に付着するので、こまめに清掃を行い、機械のエラーや不良品の発生を抑えています。

エキヤ産業の手袋に福徳産業が滑り止め加工を施して、作業用手袋になります。以前はプリントTシャツと同じような方法で、手袋に滑り止め加工を施していましたが、現在は印刷技術で滑り止め加工ができるようになりました。印刷で手袋に厚みのある滑り止めが作れるようになるまで、技術開発に1年ぐらい必要でした。

社内にはデザイン担当もいるのでデザインを工夫して、滑り止め部分を遊び心ある図柄・模様にすするような加工も可能です。

新たな販路開拓

滑り止め付き手袋の販路はこれまで、作業服・作業用品などを扱う、全国の作業用品店が中心でしたが、近年は別ルートの開拓に努めており、工場への提案にも力を入れています。すでに大手メーカーの工場では、先方の希望する仕様に対応した手袋を納入しています。さまざまな業種ごとに手袋のニーズがあるので、販路拡大の余地があると考えています。

毎年展示会を行うだけでなく、本社工場内には常設のショールームも設けています。自社の手袋だけでなく、仕入れ品の作業服や作業用品などが並んでおり、当社がどんな商品を扱っているか、お客様はひと目で分かります。

客の声ヒントに商品開発

滑り止め付き手袋は年に数点ずつ新商品を投入していますが、ロングセラーとして残るのは5～10

年に1点という、厳しい業界です。最近だと作業用手袋でも本体や滑り止め部分をカラフルにした「キュニフ」シリーズが女性に人気です。手袋本体は細かい目で編まれており、手によくフィットして、手先を使った細かい作業ができます。作業の合間に手袋をしたまま、ペンを持って文字を書くのも容易です。カラーは9色を展開しており、これだけの色数を大ロットで染色発注し、国産で作れるのは当社ぐらいではないでしょうか。

機能性のある素材を使った手袋も色々出ています。耐熱性に優れた繊維を使った耐熱手袋は、2、3年前から販売しています。熱伝導性が低く、手をやけじから守るほか、革手袋よりも作業性が良好です。鉄工所やパンを焼く店・工場など、熱い物を扱う現場の人へ提案しています。

このほかEUの環境基準ROHSの最新基準に適合した作業用手袋も生産を進め、EU向けの輸出品を製造する工場に提案しています。

新商品の開発は、お客様の声が基本です。あれこれ要望をいただいており、お客様の声を丁寧に聞けば商品開発のヒントは得られます。まだ製品化に至っていないアイデアもいくつか抱えているので、いつか出せるようになります。機能性のある糸のメーカーにサンプルの協力ををお願いすることもあり、ここでも原料メーカーへや仕入れ先の協力が不可欠です。

今後も「欲しかったのはこれだった」と言われるような、驚きを与える新商品を生み出していくたいと考えています。

